

2010 年度報告書（研究員）

氏名	平田 知久
職位	研究員（グローバル COE）
<p>研究概要</p> <p>2010 年度は、概ね年度当初に提出した研究計画に従う次の 3 つの観点からなされた。</p> <p>第 1 に、J・ハーバマスが提起するような書物が形成する公共圏という想定について、それを現代の情報メディア環境下における公共圏（の形成可能性）との比較という観点から、批判的に再考した。特に論文 1 では、I・カントの書物観に着目し、彼が書物を「精神である言葉」と「身体としての支持体」を備えた、幾分か抽象的な「人間」として扱っていることを論証し、そのような書物＝人間同士が行き交う公共圏が競覇的な性格を持つことを明らかにした。</p> <p>第 2 に、19 世紀末西洋において出現した「テレパシー」という想像力について、精神分析学の創始者 S・フロイトが残した諸論考を通覧し、それらの論考と彼の理論変遷との間の関連を論証した。論文 2 では、彼の理論変遷が、現代社会のメディア環境を論じるための一つの範例的なモデルとして解釈できることも、併せて論じた。</p> <p>第 3 に、東アジア・東南アジア諸国における情報化について、特に低所得者層に位置する人々のインターネット利用に焦点をあて、各国のインターネットカフェのマッピング調査およびインタビュー調査を実施した。成果としては、国際学会・シンポジウムでの報告を 2 度行い、報告 1 では日本、中国（北京・上海・香港）、韓国、台湾、シンガポール、タイ、フィリピンにおけるインターネットカフェ利用の概略を示し、報告 2 では、日本、香港、シンガポールというアジアの中でも有数のインターネット先進国におけるインターネットカフェ利用とそこで醸成される規範意識を明らかにした。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>論文</p> <ol style="list-style-type: none"> 「I・カントにおける書物と著作権——現代のメディア環境下における公共圏と著作権を考えるために——」日本社会情報学会（JSIS）『社会情報学研究』Vol. 14, No. 2, pp. 67-81. 2010 年 5 月. 「フロイトのメディア選好とテレパシー」京都精華大学紀要委員会『京都精華大学紀要』No. 38, pp45-68. 2011 年 3 月. <p>報告</p> <ol style="list-style-type: none"> “Some Comparative Research on Internet Cafés in East and Southeast Asian Countries: Their Current Situation and Future” International Sociological Association XVII World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden. (Jul. 2010) “Why Is “Immigrant Song” Sung: Internet Cafes and Current Status of “Migrants” in Japan, Hong Kong and Singapore,” The 3rd Next-Generation Global Workshop, Kyoto University. (Dec. 2010) 	